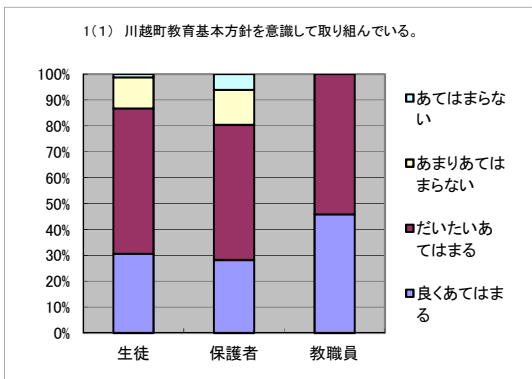
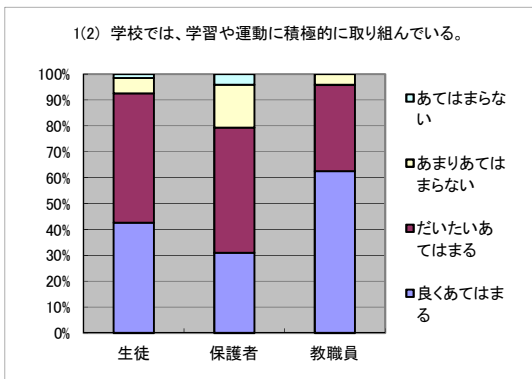


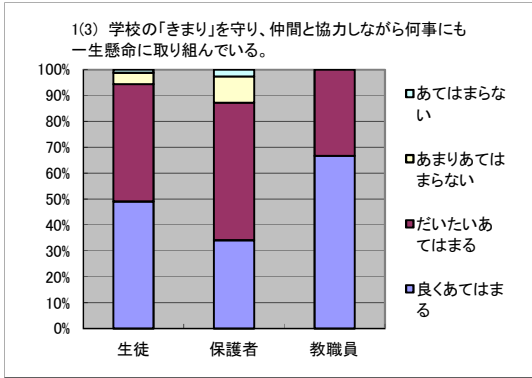
令和6年度12月実施：令和6年度川越中学校「教育活動に関するアンケート」結果報告：生徒・保護者・教職員比較から



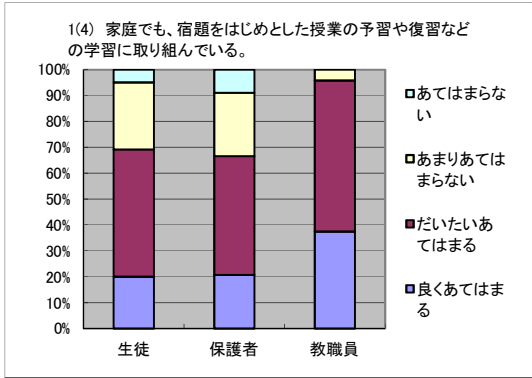
生徒は3年生が89%を超える一番高い割合になっている。2年生が一番低い数値となっているが86%を超えている。数字だけ見ると昨年度より3%向上している。保護者の数値も昨年度の77%を超えて81%に向上した。今年度より川越町の教育基本方針の「豊かな心の育成」を基に、学校教育目標を「豊かな心」を土台とした「確かに生きる力」の育成とした。学校がだよりにおいても、学校ホームページ等でも、川越町教育基本方針に合わせて、学校教育目標及び教育ビジョンの発信を継続したことも生徒及び保護者の皆さんに浸透しはじめてきたことも要因の一つであると考えている。川越中学校が3年間をかけて取り組んでいる「キャリア教育」や「進路学習」に取り組んでいるが、そこには「豊かな心」を土台とした、確かに生きる力の育成がある。すべての教育活動は、川越町教育基本方針及び川越中学校教育目標、教育ビジョンに目標に基づいて成り立っていることを発信していきたい。教職員については、全職員が肯定的な回答は教師の想いが、粘り強い指導を継続することで生徒たちに伝わってきていると考えられる。



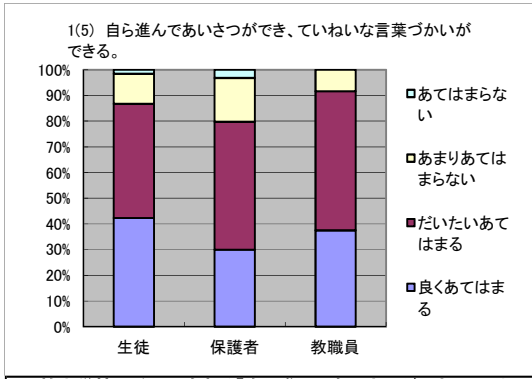
生徒の肯定的意見は昨年度の88%から93%へ向上。現在の川越中学校の生徒が毎日大変落ち着いた様子で、周りの仲間とともに積極的に学習や運動に取り組んでいることがわかる。学校教育ビジョン「関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」が学校生活の中心にあり、仲間とともに落ち着いた環境の中で、自分を出せるあたたかい雰囲気の中で学校生活に積極的に取り組むことができてきている要因であると考えている。三者を比較すると保護者の評価が昨年度同様の80%と最も低い傾向にあるが、それでも肯定的意見が3年続けて80%を超えている。また、教職員の「良くあてはまる」「だいたいあてはまる」が全体を占め、取り組みに対する姿勢の満足を示している。さらに、定期テストや実力テスト等の結果からみえてくる課題や他のアンケート項目での取り組みを参考にしながら、積極的に生徒に向き合っていく姿勢を大切にしたい。また、教師間での気づきや発見を共有し、生徒にとって学校生活が充実したものになるようにしていきたい。



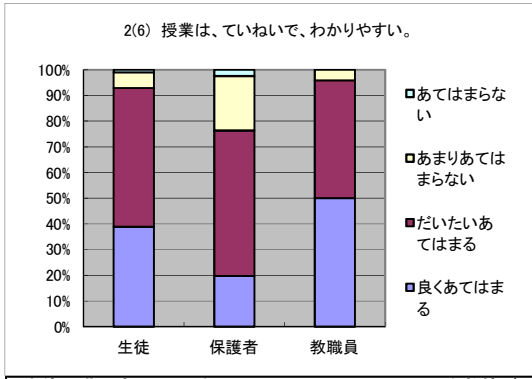
(2)「やる気」と(3)「ほん気」の「良くあてはまる」「だいたいあてはまる」の肯定的意見が生徒においては昨年度の約92%から95%の高い数値を示している。教職員の共通見解の「きまりを守る大切さ」や「仲間づくりの大切さ」を学校がだより、学年通信、クラス通信、HP、行事を通して発信し続けたこと、「なぜ、きまりを守ることが大切なのか」を考え、「仲間づくりの大切さを3年間かけて学んできたことの結果」でもあると考えられる。保護者の評価も昨年度と同様の87%となっている。生徒の学校生活で一生懸命な様子を様々な場面を通じて発信してきたことも同様の成果であると考えている。今後は学校での学習だけでなく(4)「こん気」の家庭学習への取り組みを大切に、「粘り強く最後まであきらめないで頑張れる」生徒の育成を保護者とともにすすめていきたい。



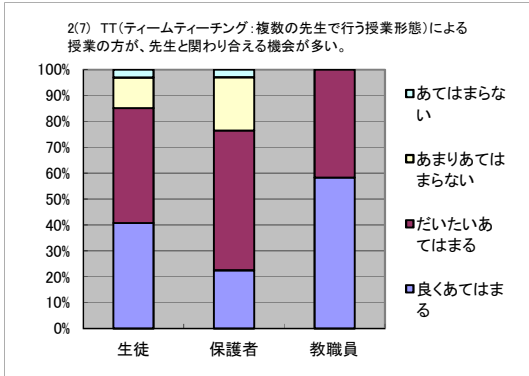
生徒の肯定的な回答はこの3年間で65%⇒67%⇒約70%へと向上している。保護者についても3年間で61%⇒63%⇒67%と向上している。川越中学校の課題として、「家庭学習」があげられるが、各学年、各教科がその課題を意識して取り組んできた成果でもあると考えられる。特に授業において、「主体的に学習に取り組む姿勢」というのは、学校の授業内だけで取り組むのではなく、授業内で取り組み、学んだ学習を家庭学習にもつなげることができるようにしていきたい。3年生の進路選択のための家庭学習はもちろん大切だが、「自ら家庭学習をしたい」と思える授業づくりや課題選定等にもつなげていきたいと考えている。学年が上がるにつれて、肯定的に取り組んでいる傾向がある。このため、1年生から、家庭学習の取り組みを価値づけるよう、生徒に引き続き働きかけをしていくことが重要である。



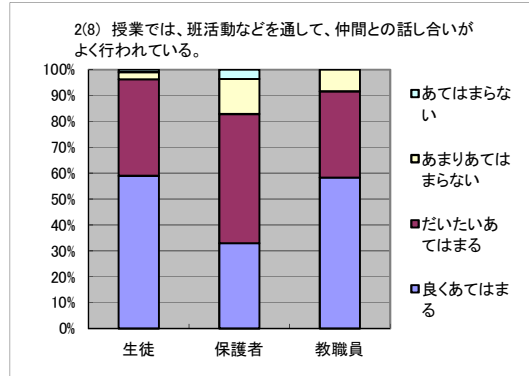
川越中学校の強みでもある「自ら進んであいさつができ、ていねいな言葉づかいができる」では、85%以上の生徒が進んであいさつができ、ていねいな言葉づかいができると回答しており、生徒が進んで挨拶を行っているといえる。これは、生徒会、代議員によるあいさつ運動や日常の関りの成果と考える。しかし、昨年度と比較して4%数値が下がっていることを意識していきたい。保護者は、生徒、教職員と比べて昨年度同様に約80%と低い。保護者の実感との差異を埋める努力をすべきである。学校の取り組みが伝わるよう日々の生活や部活動でのあいさつや言葉づかいの指導の継続が重要である。



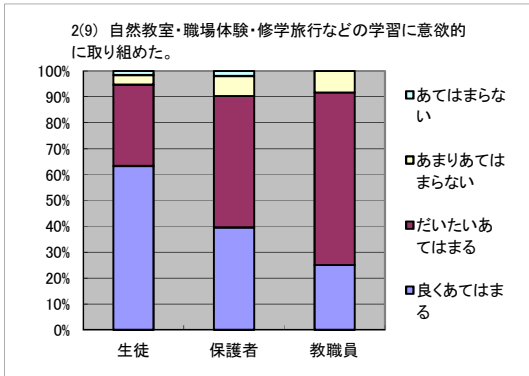
生徒の満足度はこの3年間で88%⇒90%⇒93%という数値が表している。保護者もこの3年間で74%⇒75%⇒77%というようにこの3年間で約3%向上している。この要因として、教職員研修で授業改善を目的に、「仲間づくり」を土台とした、協働的な学びの中で質の高い「めあて」と「ふりかえり」を大切にしながら取り組みを継続してきた成果でもあると考えている。また、授業参観やHPや学校通信、クラス通信にて授業の様子等を発信を継続しながら、「指導と評価の一体化」を目指し、シラバスやルーブリック等を活用した「観点別評価の見える化」などを教科ごとでも進めていきたい。



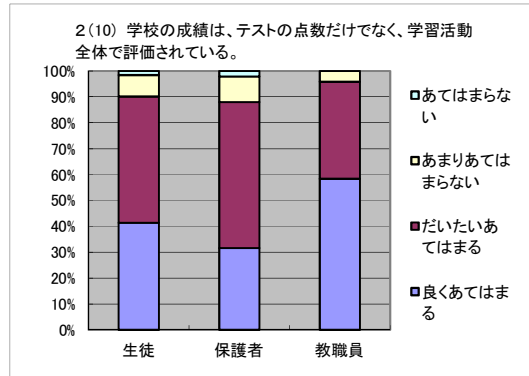
生徒の満足度はこの3年間で80%⇒81%⇒85%と向上している。昨年度までは、2年生での「わかる授業」を中心に取り組んできたが、今年度からは1年生でも2年生でも「習熟度少人数授業」、3年生ではTT授業を年間通して継続できたことも背景にある。英語授業においても一部2年生でもTTにおける授業をすすめた。保護者の満足度も3年間で73%⇒75%⇒77%と高くなる結果となった。今年度の少人数やTTが充実したものとされているとともに、授業参観で少人数やTTの授業の様子を見ていただいたことも要因と考える。



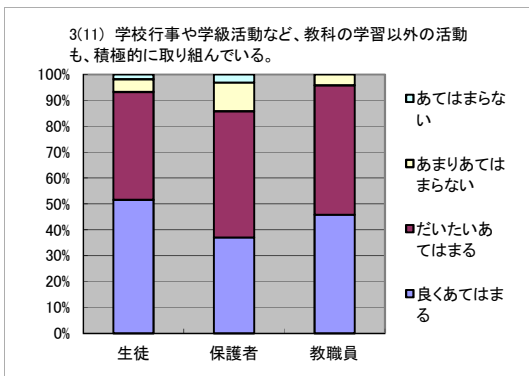
生徒の満足度はこの3年間で90%⇒92%⇒97%以上と高い数値となっている。教科授業においても、総合・学活等でも学習班やペア学習など仲間との「学び合い」による授業形態が進んできた実感している。日常の教科指導を含めて「仲間づくり」を土台とした「学び合い」を大切に班活動を大切にしていることが要因の一つである。また、教職員の数値は昨年度より約5%上昇した。生徒の満足度が高い要因として、教職員一人ひとりが研修を深め、教職員がお互いに授業での改善点を明確にし、授業づくりに生かしていく必要がある。



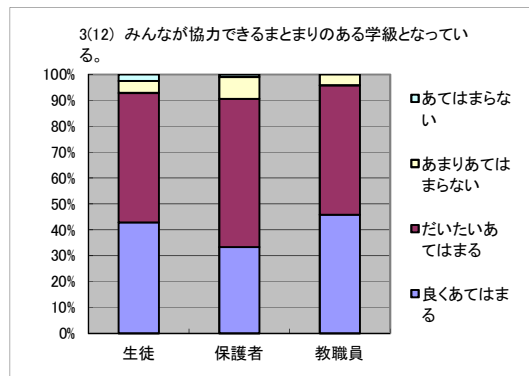
生徒の満足度はこの3年間で92%⇒95%⇒96%と高い数値を継続して示している。教育ビジョンにある「仲間づくり」を土台とした「認め合う・支え合う環境づくり」を大切にしたいという位置づけを理解し、意欲的に取り組んでいるといえる。「体育祭」「文化祭」という大きな学校行事では「川中は先輩の姿から学ぶ学校です」という言葉を、3年生・2年生の子もたちが体現してくれたことが大きな成果。2年生生徒の「職場体験学習」というキャリア教育の効果の効率は高い。今後も地域とともにあるキャリア教育も展開していきたい。一つ一つの行事に意図と目的を明確にし、行事を通して日常の学校生活につながる取り組みの成果を評価していく必要があると考える。



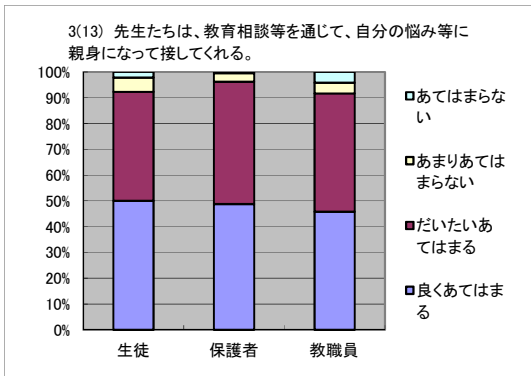
生徒の満足度はこの3年間で87%⇒90%⇒90%という数値となっている。保護者にとっても84%⇒86%⇒88%というように少しずつだが向上してきた。今後は「指導と評価の一体化」を目指し、教科ごとでシラバス、ルーブリック、学習評価カード等を通して授業内における評価の在り方など教科ごとで説明見える化をして取り組んでいくことが課題。学校内にて「指導と評価の一体化」を目指して、より具体的な内容での研修等を重ねていく必要がある。教職員が授業改善を日々進めている。まだまだ周知されていない課題が明確にあり、保護者の結果も90%に達していないことから、生徒・保護者に評価規準・基準や授業の中での評価の観点を明確に示していくこと「見える化」を可能な限り進める。そしてテストの点数だけではなく評価の在り方を丁寧に発信し続ける必要がある。



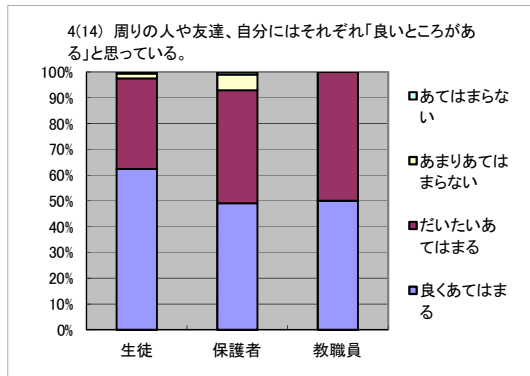
生徒の満足度はこの3年間で88%⇒90%⇒94%と高い数値を継続している。コロナ禍によって精選選直を進めてきた学校行事がこの3年間で濃縮し、根付いてきたように思える。学校が求める行事に対しての「仲間づくり」を土台とした目的や意図を生徒も保護者も十分に理解をして取り組んできた背景があるため、行事に対する高い期待値と合わせ、生徒が行事に参加しての達成感や満足感、そして自分の居場所がクラスであり学校なんだという意識が根付いてきた証拠だといえる。すべての学校行事を地域関係者や保護者の皆さまに参観する機会を大切にできたことも成果だといえる。また、通信を通じて、生徒の活動の様子が活発に発信された。発信力という点では参観には及ばないかもしれないが、通信やホームページなどの手法で保護者に生徒の積極的な活動の様子を知らせていき、否定的な回答の割合を減らしていきたい。



生徒の満足度はこの3年間で85%⇒89%⇒93%という高い数値となっている。学校教育ビジョンの中に示してある川越中学校の教育の柱でもある「関わることを通して、人権が大切にされる『仲間づくり』」が全ての教育活動の土台にあること。その上に具体的な教育活動があり、生徒も保護者も教職員も共通理解を持って取り組んできたことの結果だと思ふ。そして、生徒に「みんなが協力できるまとまりのある学級」を一緒に創り上げてきたという自信があり、その中で満足感や居心地の良さとして体感できたのだと思ふ。現在取り組んでいる活動を継続することが生徒たちの意欲や学級づくりに繋がっていくと考える。その一方で「あてはまらない」と答える者がいることも受け止めなくてはならず、学校に行きずらさを感じている生徒たちへの教職員の関わりを、さらに見直すことが大前提にある。生徒や保護者への理解や実感を我々がアンテナ高く教育活動に対して取り組んでいかなければいけない。

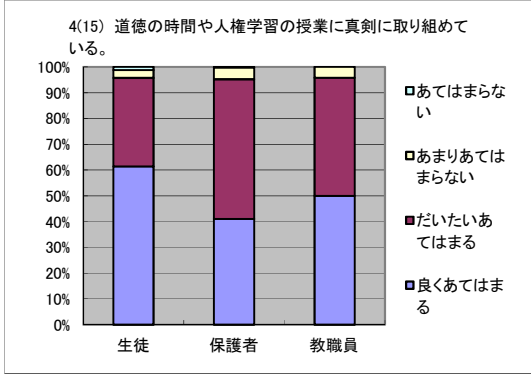


生徒の満足感はこの3年間で88%⇒90%⇒93%という高い数値。保護者にとっても87%⇒92%⇒96%という継続して高い数値であり、学校教育ビジョンにも示してある川越中学校が大切にしている「一人一人の子どもたちを大切にしたい5つの取り組み」の、『生徒に寄り添う生徒理解の充実』に向けて、定期的な教育相談だけではなく、気になる生徒、毎日のデイリーノート、今日思うことへの生徒が自ら記入してくれた内容に対して敏感に早急に対応できたことが要因であると思われる。しかし、教職員の多忙さも理由にはなりますが、時期的に子どもたちに向きあうことがなかなかできなかったり、毎日のデイリーノート等の確認、返信などの丁寧な対応への課題もあった。学校に行きづらさを感じる子どもたちへの対応は、家庭訪問や放課後登校、校内サポート一む等での対応によって生徒とのコミュニケーションが増えたことが良い方向につながり始めている。「あまりあてはまらない」と答えた生徒も全体を通して7%おり、このような傾向を見逃すことなく多くの生徒と関わる機会を設ける意識を大切に取組んでいく。

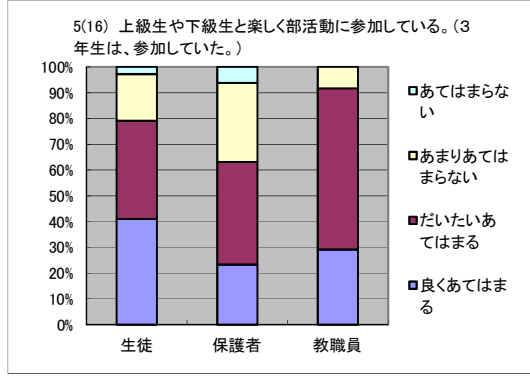


生徒の満足感はこの3年間で93%⇒95%⇒97%という高い数値に、保護者の意見も93%⇒95%⇒93%と肯定的な回答が95%半ばとなっている。ただし、「あてはまらない」「あまりあてはまらない」と回答をしている生徒が全校に6人いる現状がある。「周りの人や友達、自分に良いところがある」と生徒が思えるような自己肯定感を高めることができる教育は、日常生活の中で一番多くの時間を費やしているのが教科授業である。教科授業の中で「わかる・できたと思える授業」を推し進めている。学び合う授業づくりを大切にするとともに、授業内でも「自分の思うところ」「わからないことをわからないと言えない」というような関わり合いの中で、自己肯定感を高める授業づくりを進める。

そして、互いの良いところを認め合うという意識のもと、普段の生徒との関わり、授業、道徳教育に取り組んでいきたい。学校全体での学級通信・学年通信等を活用した「見つめる」「語る」「つながる」取組が、自他の思いを共有し、他者をより知ることができる機会につながっていると考える。

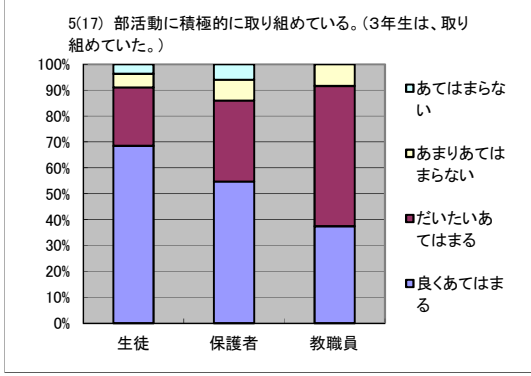


生徒の満足感はこの3年間で、93%⇒95%⇒96%、保護者の満足度も90%⇒92%⇒95%以上が道徳や人権学習に真剣に取り組んでいると回答している。教職員も96%が取り組んでいると回答している。学校全体として、計画的に人権学習と道徳の授業数・内容等の見直しをもって取り組むことができたと考え。今後も、道徳・人権学習ともに「生徒にどのような力をつけたいのか」を明確にした上で、指導計画を余裕をもって検討、生徒が自分のこととして向き合っていく。学校教育ビジョンの「認め合う・支え合う環境づくり」を進めながら、一人一人が安心して、自分の思いを伝えることができる居場所づくり、生徒間交流ができる場の設定、いじめ・差別を許さない心の育成などに今後力をいれていく。

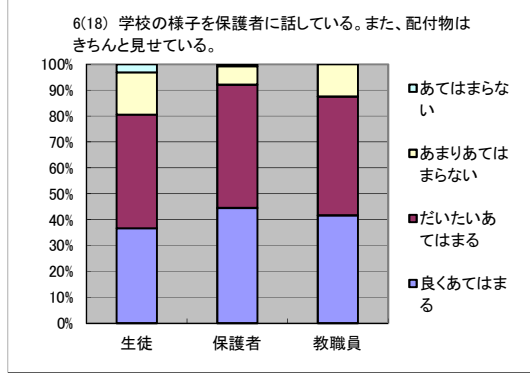


昨年度より「朝読書を含め、意欲的に読書活動に取り組んでいる」という質問項目に変えた。昨年度の生徒の満足度は80%⇒今年度は78%。保護者では62%⇒63%というなかなか数値として表れていない。それだけ、学校内での読書活動推進の取り組みが浸透しきれていない現状である。

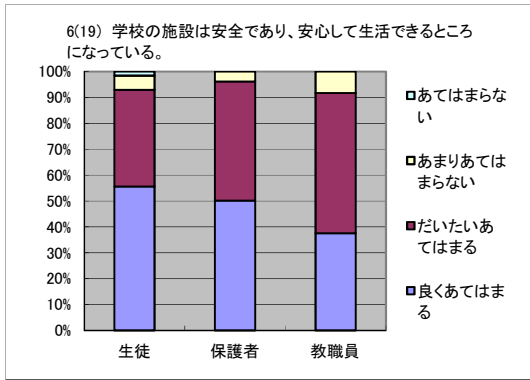
朝の読書では、落ち着いた読書の様子で1日の始まりが大変落ち着いた様子でスタートができることは良いが、自分の本を持参することができず、毎日学級文庫の同じ本を読んでいる生徒もいる。今後は図書委員会の活動を積極的にすすめ、生徒たちや図書館司書とも相談をしながら読書活動の推進を図りたい。しかし、2年連続で、読書活動推進事業として取組んだ「四日市市メリーゴーランド店主の増田さんの講演会」は成果があり、次年度も読書活動推進活動を継続していきたい。



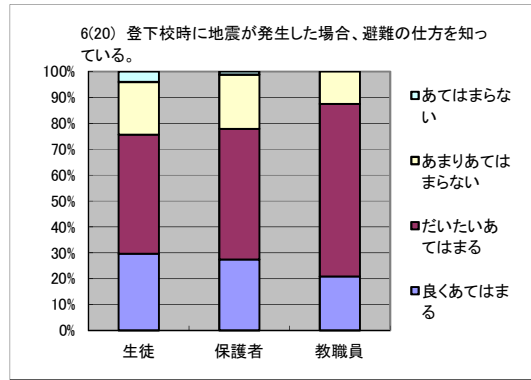
昨年度同様、生徒・保護者は高い数値で概ね満足感・達成感を持っている。「学年の枠を越え、人間関係の形成・社会性の育成」の視点で顧問が継続的に指導した結果であるともいえる。限られた時間の中でチームメイトとともに部活動を楽しみ、積極的に参加できるよう、教師が顧問として、内容の工夫や場の設定、支援の在り方を考えてきた成果であると考え。ただ、年々部活動に参加する生徒の6%⇒8%⇒10%が積極的に参加できていないことがあり、そのことにも目を向けていく必要がある。来年度4月からは、「部活動が自主的に自発的な加入へと移行する。そして、令和8年の3年生にとって最後の運動部の大会と文化部の大会等が終了をした段階で、地域移行に向けて土・休日の部活動が行われなくなる。まだまだ見通しが持たない現状でもあるが、教育活動としても大変効果のある部活動を今後大切に取り組んでいきたい。



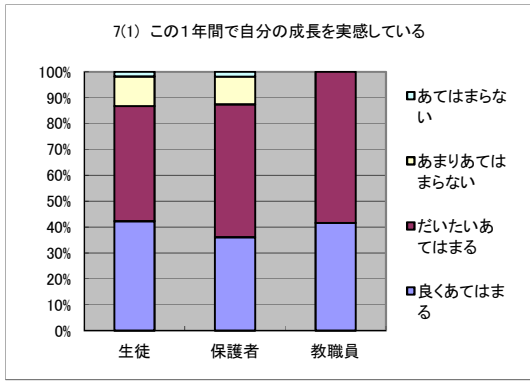
生徒82%、保護者92%、教職員88%と昨年度とほぼ同じ数値である。体育祭や文化祭などの大きな行事保護者参観を可能にして3年目。また、積極的に公開授業を行ったり、日頃から教職員が学校や家庭での生徒の様子を電話で共有したり、学年・学級通信、進路通信、生徒指導だよりの配付が保護者の高い数値につながっていると考えられる。さらには、ホームページも頻りに更新することで、アクセス数も増加しており、保護者をはじめ地域の方からも学校の様子・教育活動を知ってもらえているのも大きな要因だと考える。特に今年度は「すぐる」での配信を意図して増やしてきた。書面での配付物と合わせて、今後も意図した「すぐる配信」を随時行っていく。一方、学校の様子を保護者に話さない、また配付物を渡していない生徒が20%いる。これは、保護者の学校に対する不信感にも繋がるので改善の必要がある。



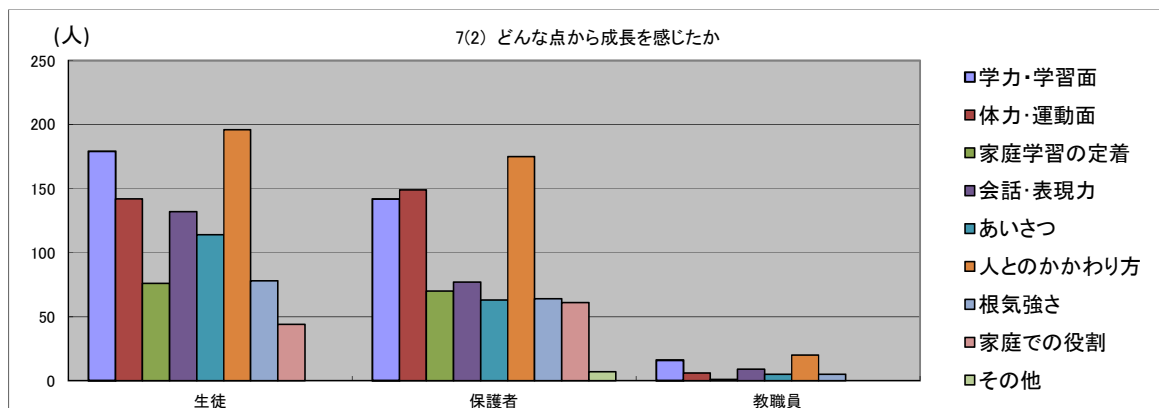
昨年の比較では、生徒±0ポイント(今年度99%)、保護者+6ポイント(96%)、教職員+2ポイント(92%)となっている。数値の高さから生徒は安心感をもって学校生活を送れていることが伺える。2学期9月より仮設校舎にでの学校生活がスタート。仮設校舎のスタートにあたり教職員間で通学路対応や校舎内の生活のルール等を一つ一つ丁寧に対応してきた。夏休み前の全校での仮設校舎見学など見直しを持ち生徒が不安にならない取り組みの成果が出た。9月早々の授業公開期間も、保護者の皆さんや地域の皆さんが仮設校舎の不安を払しょくする良いタイミングとなった。現校舎で生徒を預かるために生徒の安全安心に過ごせる学校づくりを目指していく。施設的な面だけではなく、生徒たちが一生懸命に制作した心の通う作品を玄関に掲示したり、駅伝大会等の全校あげて取り組んだ活動の証等を展示しながらあたたかい学校づくりを目指していく。



生徒76%・保護者78%ともに昨年と比較し5ポイント程度マイナスとなっている。これは、仮設校舎での学校生活が始まるうえで、旧校舎までのように避難訓練を実施し、津波対応として校舎の屋上を避難場所としてきたことから、現状の仮設校舎での避難経路、避難箇所への不安を感じている生徒も保護者も教職員も20%程度いる。この不安を払しょくするためにも関係機関と連携した防災訓練や、避難経路の確認などをより具体的に見直しを持って対応することが急務であると思う。仮設校舎での避難経路を再確認すること合わせて、全校生徒・教職員の命が関わってくるものなので限りなく100%に近づけなければならない。9月からは仮設校舎からの避難経路などの見直しがあったので、適切に対応しているという認識があるが、認識を改め、くり返し生徒に伝える必要がある。また、年度初めの地区別集会で、登下校時の避難経路についての確認が重要である。



生徒の「この1年間の成長を実感する」という満足度はこの3年間84%⇒85%⇒87%と少しずつはあるが向上。保護者も83%⇒85%⇒87%と着実に向上。教職員では100%と肯定的な回答。これは学校教育ビジョンからくる「子どもたちが主体となる自治活動」や「わかる・できたと思える授業」、「認め合う・支え合う環境づくり」、「心とからだの健康」など一人一人の子どもたちを大切に意図した取り組みとして実感できる活動が進められた。各学年の系統だった人権学習や日常の仲間づくりを通して、生徒が仲間とともに成長した姿を実感できるように学校全体で系統的に進める必要がある。



学校教育ビジョン「関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」」にも記してある「人とのかわり方」。この項目での成長を実感できる一番大きく表れている。その次に、全校生徒が実感できるものとして「学力・学習面」が一番大きく表れている。本校生徒の役半数が「人とのかわり方」「学力・学習面」に回答しており、毎日の繰り返りを言葉にして自分を見つける活動やクラストークキングなど、意図した関わりが大切にされる活動を重ねてきた結果であると考え。本校の人権教育でめざしている「仲間とのつながり」について、生徒も保護者も教職員も成長を感じていることが示されている。

それに伴って、「体力・運動面」に成長を感じている生徒の回答数は昨年度、一昨年度と比べ大きく減少している。部活動地域移行の件も含めて、今後の大きな課題としても考えなければいけない重点ともなってくる。「人とのかわり方」を基にして、「学力・学習面」「会話・表現力」も成長しており、「主体的・対話的な深い学び」が徐々に定着してきた成果と考える。これらをベースに教職員が日常の授業改善を大切に、誰一人取り残さない授業づくりを図っていききたい。ここ数年の課題に挙げられるのは、「家庭学習の定着」「根気強さ」である。学習課題の与え方を工夫し、何をどうしたらよいか方法を含めて提示し、保護者にも知らせる必要があると考える。あわせて、生徒が自ら進んで学びたいという意欲を湧き立てるような授業づくりをさらに進めていきたい。